

3. 品質確保

3.1 品質管理及び工程管理の取り組み

3.1.1 ダム本体工事重点監督項目

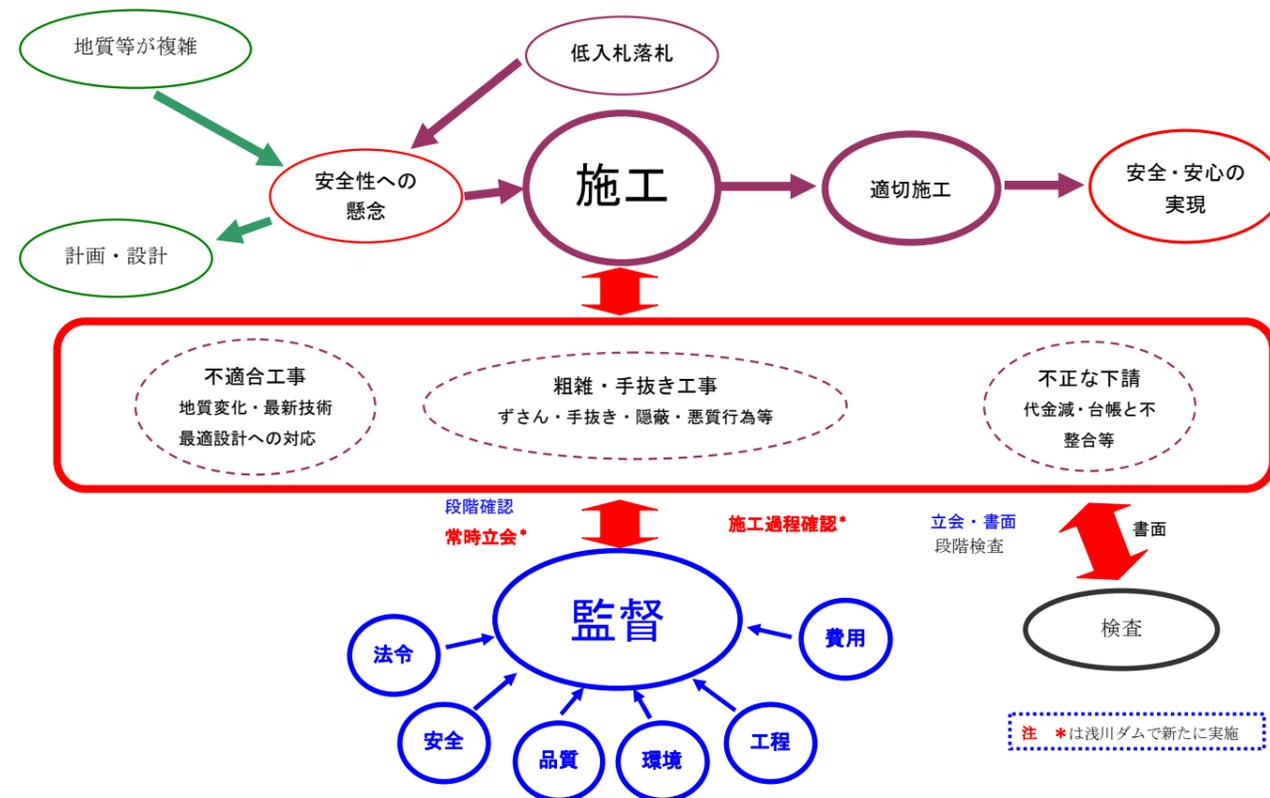
浅川ダムでは、ダム本体工事において設計図書品質を確保するとともに、適正かつ円滑な工事の執行を管理するため、「浅川ダム施工技術委員会」を設置する。

また、工事の施工管理と品質の確保のために、立会検査の項目を増やし、頻度を上げて実施し施工監理体制の強化を図る。

施工監理体制の強化については、以下を行うものとする。

- ① チェックリストによる現場管理の強化
次ページの施工過程立会・検査項目一覧表の項目に対し、チェック表を作成し、施工管理項目をチェック形式で確認する。
- ② 施工監理体制の強化
現場内に設置されたカメラを利用し、現場監視体制の強化を図る。
- ③ 第三者機関による施工実績評価
工事進捗状況に合わせて、第三者機関に施工実績分析評価業務を委託する。
- ④ 第三者機関による委員会の設置
外部有識者による浅川ダム施工技術委員会を設置し、施工・監理等について審議する。
- ⑤ 建設部外の組織（会計局検査課）による指導監査および抜き打ち検査を頻繁に行う。
- ⑥ 週間工程を確認する
毎週一回、週間工程表により、1週間の作業内容について、計画と工程の確認を行う。

浅川ダム本体工事を取り巻く状況と監督のあり方



浅川ダム本体工事の監督（施工立会）考え方

● **施工過程確認の実施**
出来形・品質のみならず、工事目的物が技術基準・特記仕様書に規定された施工方法により適切に施工されているか、現場の施工過程についても確認（検査）し、品質確保を図る
→作り方が適切か否か、そのプロセスも検査することより、「抜き取り検査」のみの管理ではなし得ない、ダム全体の安全性を高いレベルで確保したい

● **常時立会の実施**
現場の施工過程についても確認検査し、品質確保を図る観点から、重要度等に応じて
Ⅰ：工事現場施工状況を常に確認
Ⅱ：高い頻度で抜き打ち立会
Ⅲ：WEBカメラによるリアルタイム（サーバデータ）画像に基づき施工チェックを実施する
→ダムの重要度に応じた施工プロセス立会（検査）項目表を作成し、ダム全体の安全性を高いレベルで確保をしたい

施工過程立会・検査項目一覧表

対象工種	細目	施工過程立会(検査)項目	総括監督員	主任監督員	監督員	現場技術員等
堤体掘削工	岩盤性状の把握	地質・岩盤の観察:地質の変化・熱水変質はないか、分布はどうか	■	■	■	●
		掘削範囲は適正か(範囲を指示)	■	■	●	●
	斜面安全性の確認	滑り・変位・崩落はないか(GPSによる変位をインターネットで確認)	▲	▲	▲	●
		基礎岩盤の不良箇所の処理方法をどのようにするか(指示)	■	■	●	●
	断層処理の指示	断層・破砕帯の処理方法をどのようにするか(指示)	■	■	●	●
		法勾配は適正か			■	●
	掘削方法の把握	掘削工法(ベンチカット・発破・人力)は妥当か			■	●
		基礎岩盤の保護は適正か、発破等による緩み防止はよいか			■	●
	仕上げ掘削工	仕上げ掘削方法は妥当か			■	●
		変質部はないか	■	■	■	●
		保護厚さは適正か			■	●
		モルタル吹工の範囲・厚さは適正か			■	●
		2次掘削厚さは適正か			■	●
	岩盤清掃	掘削完了後の仕上げ状態はよいか	○	○	○	○
掘削の仕上がり形状において著しい凹凸の有無等はないか				■	●	
岩盤検査	有害物の除去はされているか			■	●	
	岩盤清掃完了後の基礎岩盤の適切か(共通仕様書1-3-8)		○	○	○	
材料採取	コンクリート打設前の養生期間は所要時間(24h)以内か			■	●	
	検査合格前に打設していないか			■	●	
	CSG材母材としては適切か(CL級以上かどうかの判定を行う)		■	■	●	
材料採取	採取方法が適切か、廃棄材との混合がないか			■	●	
	CSG材の仮置き方法・排水処理は適切か、廃棄材との混合はないか			■	●	
堤体コンクリート工	セメント材料	セメントの種類(高炉B種)、貯蔵量、製造日は適正か				■
		混和材の品質・濃度、貯蔵量、製造日は適正か				■
	骨材材料	骨材の品質・含水量・最大粒径・形状、貯蔵量はよいか				■
		有害物質混入はないか				■
	コンクリート材料	骨材の貯蔵状況(表面水・温度管理)はよいか				■
		混合設備における自己計量記録・精度は適正か			■	■
	コンクリート打ち込み	混合水のPH、有害物質・塩化物の有無はよいか			○	○
		打設前検査(OK表に基づくチェック:全34項目)	■	■	○	○
		敷モルタルの施工法が適切か			■	●
		配合種別(外部、内部、構造、高強度等)は適切か			■	■
		打込み方法(バケット高さ、横引き、溜まり水、異配合等の処理)はよいか			■▲	■▲
		締固め方法(機械、手動の範囲、振動時間等)はよいか		▲	■	■▲
		表面仕上げ(凹凸の有無、天端仕上げは木ごて)はよいか			■	●
		継目・コールドジョイントの処理は適切か	▲	▲	■	■▲
降雨・暑中・寒中コンクリートは適正に処置しているか		▲	▲	●	●	
廃棄コンクリート処理はよいか				●	●	
養生	天候の急変に対する対応は適切か	■	■	●	●	
打継目処理	湿潤状態・日数・温度管理はよいか			■	●	
型枠工	レイタンスの除去方法・表面状態はよいか、止水性は確保されているか			■	●	
埋設工	組み立て・据え付け状態、剥離剤、取り外し時期、面積はよいか			■	●	
	鉄筋・止水板・計測計器等の設置位置・状況はよいか			■	●	
造成アバットメント工	着岩部の岩盤性状はよいか		■	●	●	
	生コンの品質、打設方法(リフト高、締固、養生)のは適切か			■	●	
(基礎処理工)	ボーリング工	位置、穿孔角度、坑内洗浄は適正か			■	●
	水押・透水試験工	検尺・ボーリング長さは適切か			○	○
	グラウチング工	圧力レベル・パターンはよいか、漏水はないか			■	●
CSG地滑り対策工	グラウチング工	注入材、濃度、圧力、速度、量は適正か			■	●
	掘削工	岩盤変位・リークの有無、ミルク濃度、注入完了基準のは適切か			■	●
	CSG母材の管理	基礎地盤、岩盤清掃の性状はよいか	■	■	●	●
	掘削ズリ(CL級以上)、養生状態は適切か			■	●	
	CSG材の製造	母材の最大寸法・貯蔵量、単位セメント量、有害水はよいか			■	■
	計量器の精度・自動計量記録装置の管理状況は適切か			■	■	
	打設	機械の点検状況・労務者の配置、器具の整備状況は適正か			■	■
	締固め	材料分離の有無、敷均厚、転圧(走行速度、回数)は適切か	■	■	■▲	■
	打継目処理	レイタンス除去・清掃・凹凸の状態、敷モルタル厚さはよいか			■	■
	施工の制限	レイタンス除去・清掃・凹凸の状態、敷モルタル厚さはよいか		■	■▲	■▲
型枠工	施工時間、降雨量、打込み温度は適切か			■	●	
埋設工	組み立て・据え付け状態、剥離剤、取り外し時期、面積はよいか			■	●	
	転流水路・止水板・排水工の設置位置・据付状況は適切か			■	●	

【凡例】

- :常に確認
- :高い頻度で抜き打ち的立会
- ▲:WEBカメラによるリアルタイム(サーバデータ)画像に基づいた施工チェック
- :段階確認(共通仕様書、従来の県営ダム)

3.1.2 品質確保及び工程管理のための取り組み方針

【品質確保】 浅川ダム建設工事において、施工品質が契約条件を満たすよう、確実な品質管理を行うための体制の整備と管理状態の確認を以下のように行う。

- 「(株)大林組 土木工事品質保証実施基準」に基づいた全社的な品質管理体制の構築を図る。
- 大林組 本社技術部門および北陸支店、守谷商会、川中島建設で組織する「浅川ダム品質保証会議」を設置して、共同企業体の全社をあげた管理状態の確認体制を構築する。

【工程管理】 工事の施工に際し、決められた工期内に所定の仕様書、設計図書などに基づいて品質が確保された状態で工事を完成させるために行うものである。

計画・実施状態が良好であるかを確認し、常に望ましい施工状態とする。工程の遅延が確認された場合はその要因を明確にし、必要に応じて変更工程を作成する。

これらの工程管理により、効率的で無駄のない資材調達と人員配置を実施して、品質の確保された工事目的物を完成させる。

3.1.3 品質確保及び工程管理のための管理体制

【品質確保】

- 管理体制の整備 (図 3.1.1)

堤体基礎掘削、堤体コンクリート打設及び CSG 地滑り対策工は、コンクリートダム工事に精通した品質管理技術者等を配置する。

- 管理状態の確認(図 3.1.1)

- 品質保証活動のチェック体制の強化、計画の見直し等の重要事項の意思決定の迅速化を図る。
- 品質管理データは専用のデータサーバに保存し、現場、大林組本社技術部門および北陸支店がリアルタイムで相互に最新の品質確認記録にアクセスし、品質を確認できる環境を整える (Web カメラによるリアルタイム画像配信も含む)。

- 品質保証教育の実施

- 堤体基礎掘削、堤体コンクリート打設及び CSG 地滑り対策工の主要工事開始時に関係作業員に対する品質保証教育を実施する (図 3.1.1、写真 3.1.1)。



写真 3.1.1 品質保証教育実施状況

【工程管理】

以下のように工程表等を作成して、工程管理を実施する。

- 全体工程表による工事全体の進捗管理
- 月間工程表、週間工程表による日常の工程管理
- 個別施工計画書に記載する詳細工程表による工程管理
- 定点での写真撮影による進捗管理
- 一目で進捗状況が確認できるよう、バーチャートによる「計画・実施・変更工程」を作成する。
- 進捗管理グラフにより、出来形の把握を行う。

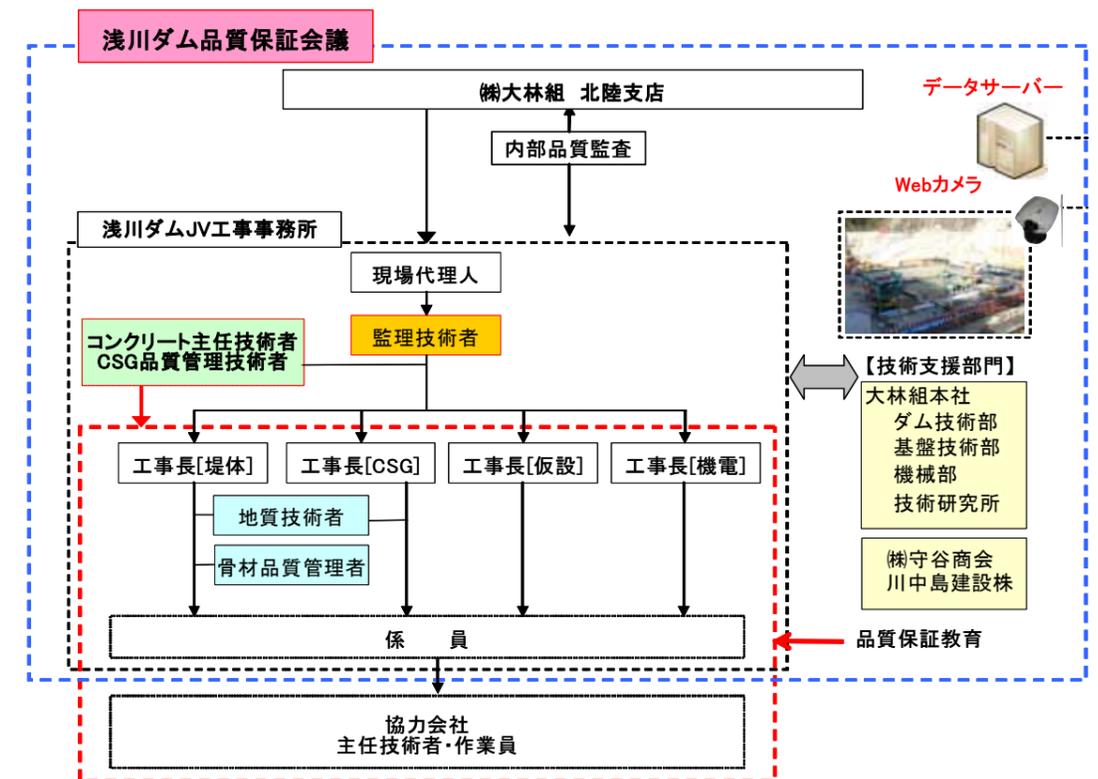


図 3.1.1 品質保証体

4. 施工計画及び工程管理

4.1 施工概要

4.1.1 施工条件

表 4.1.1 施工条件、地元協議事項等

項目	条件	対策
工 事 用 道 路	旧県道等を利用した工事用道路を使用する。	畑山残土処分場付近は、工事用道路の幅員が狭いため、一方通行での運行計画とする。また、河床旧県道部は、ダンプトラック（10t）の離合を可能にするための離合帯を 100m に 1 箇所程度設置する。また、一般車との接触が多くなる箇所には交通整理員を配置し、交通災害を防止する。
交 通	工事用車両については、左岸市道～旧県道のりんご栽培集落内は通行しない。	運行ルートを定め、関係者に周知する。また、集落からの一般車との接触が予想される区間は工事用車両の運行速度を 15km/h 以下とする。
気 象	<p>【コンクリートの打設規制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 時間当たり 4mm 以上の雨 ・ 日平均気温 4℃以下 ・ 日雨量 20mm 以上の降雨 ・ 打込時のコンクリート温度 5℃以下、25℃以上 ・ 水中コンクリート 	
排 水 基 準	<p>【濁水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Ph6.5 以上 8.5 以下 ・ SS 25mg/リットル ・ 150t/h 処理能力 ・ 220t/h 処理能力（実施） ・ 60t/h 処理能力（掘削時実施ポータブル） 	

4.1.2 施工計画概要

①本体掘削				③ボーリング・グラウチング工				
数量	土石		岩		コンソリデーション	総延長	ボーリング	2,040m
	210 千 m ³		32 千 m ³			グラウチング	1,210m	
施工機械	ブルドーザリッパ装置付 32t 級 バックホウ 0.8m ³ 級 大型ブレーカ 1300kg 級		ブルドーザリッパ装置付 32t 級 クローラドリル 150kg 級 レッグハンマ 40kg 級 可搬式空気圧縮機 10.5~11m ³ /min 級 バックホウ 0.8m ³ 級		カーテン	標準パターン	5m 格子、2.5m 千鳥	
	バックホウ 1.6m ³ 級 ダンプトラック 10t 級 ブルドーザ 21t 級					削孔機械	ロータリー式	
				改良目標値		5Lu		
				総延長		ボーリング	4,610m	
建設発生土受入地	場 所	畑山建設発生土受入地		グラウチング	3,870m			
	距 離	2.0km		標準パターン	1.5m 間隔			
	発 生 土 量	242 千 m ³		削孔機械	ロータリー式			
				改良目標値	深度 0~15m ; 2Lu 程度 深度 15~30m ; 5Lu 程度 深度 30m 以深 ; 10Lu 程度			
②本体コンクリート				④その他の事項				
堤高	53m			濁水処理設備	機械処理脱水方式	処理水量 220m ³ /h 処理目標値 浮遊物質 量 SS 25 mg/L 以下 水素イオン濃度 pH 6.5~8.5		
コンクリート量	堤体 141,000m ³ (造成アバット 6,100m ³)			給気設備	基礎掘削時	可搬式スクリー(5.8m ³ /min)		
コンクリート打設設備	主打設備	定置式タワークレーン				可搬式スクリー(5.8m ³ /min)		
	台 数	1 基				可搬式スクリー(12.0m ³ /min)		
	中間タワー高さ	27m			コンクリート製造設備			
	定格荷重①×作業半径	16.5 t × 75m			定置式スクリー(2.1m ³ /min)			
定格荷重②×作業半径	10.7 t × 85m		給水設備	使用水量	循環水 2.33m ³ /min 清 水 0.38m ³ /min			
コンクリート製造設備	バッチャープラント 2 軸強制練り 3m ³ ×1 台	電動機出力 180kW 能力 105.9m ³ /h 設備重量 149t		貯水槽	循環水層 20m ³ 用 3 基 清水槽 20m ³ 用 1 基			
セメント貯蔵設備	セメントサイロ 容量 400t×1 (3 日分)	電動機出力 31.5kW 能力 40.0t/h 設備重量 25.0t						
骨材貯蔵設備 (5 日分)	粗骨材	G1 80~40mm	コルゲート 1 基 φ 12.0m×H10.9m					
		G2 40~20mm	コルゲート 1 基 φ 12.0m×H10.9m					
G3 20~ 5mm		コルゲート 1 基 φ 12.0m×H10.9m						
	細骨材	G4 5mm 以下	コルゲート 2 基 φ 10.0m×H10.9m					
横継目間隔	15m							
縦継目	な し							
セメント種類	高炉 B 種							
骨材寸法	Gmax 80mm							

4.3 掘削計画

4.3.1 仕上げ掘削仕様

①粗掘削後からコンクリート打設完了までの経過時間とせん断強度の関係および②経過時間と劣化深度の関係から、仕上げ掘削は以下の考えに基づき設定した。

仕上げ掘削仕様

- 仕上げ掘削は、掘削によるゆるみ深、とスレーキングによる劣化深を考慮したものとする。
- 仕上げ掘削は、ゆるみ深 50cm とスレーキングによる劣化深 20cm~30cm 考慮し、河床部 70cm、アバット部 80cm として設定する。
- 仕上げ掘削は、1次掘削と2次掘削とに分割し、それぞれ 60~70cm、10cm とする。
- 1次掘削から2次掘削までの経過時間は、最大 10日、2次掘削開始からコンクリート打設完了までの作業時間は、24時間以内とする。

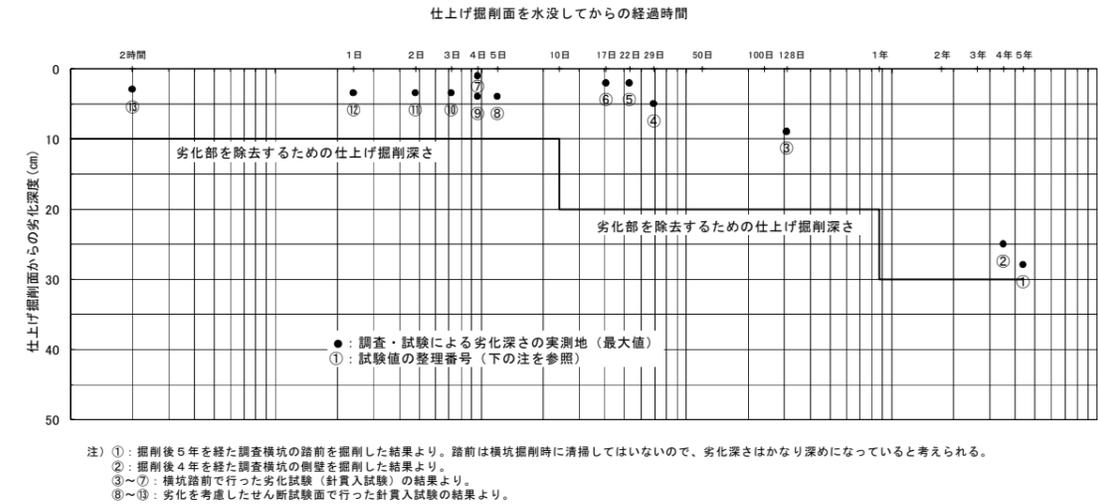


図 4.3.1 暴露後の経過時間と劣化深度の関係

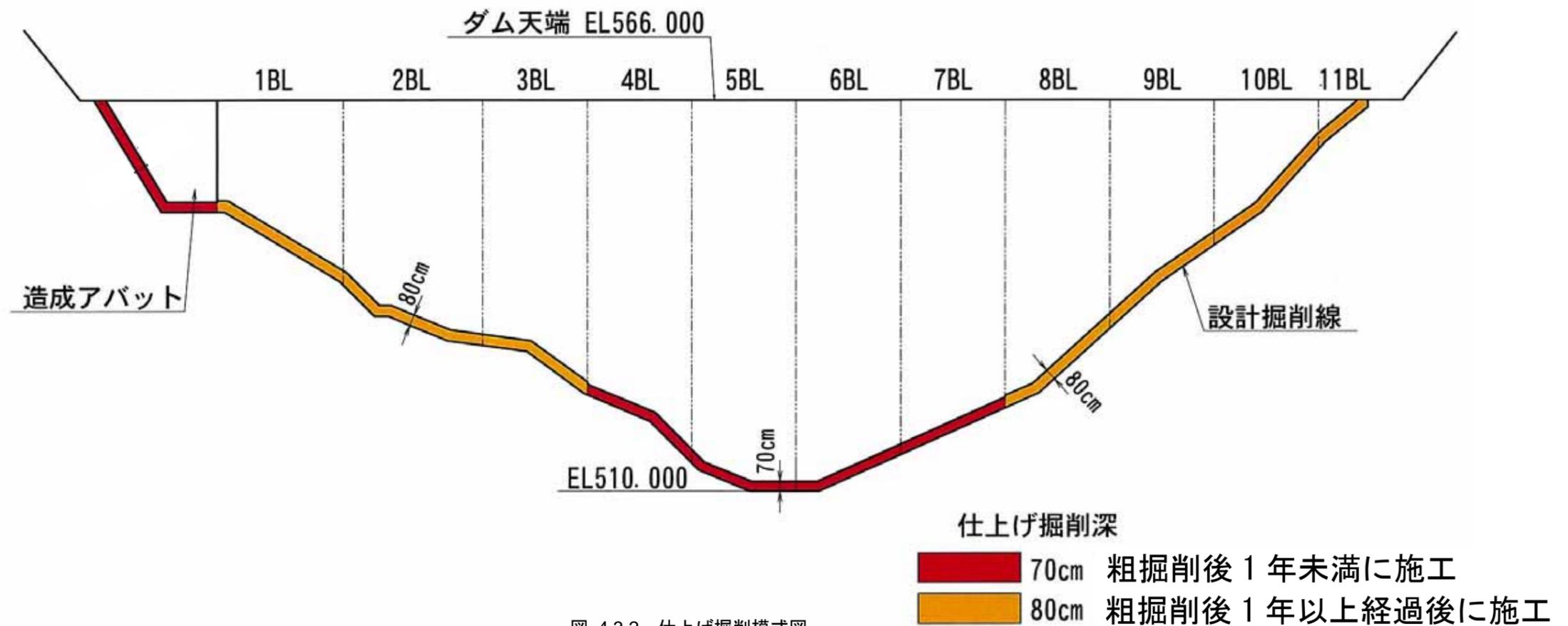
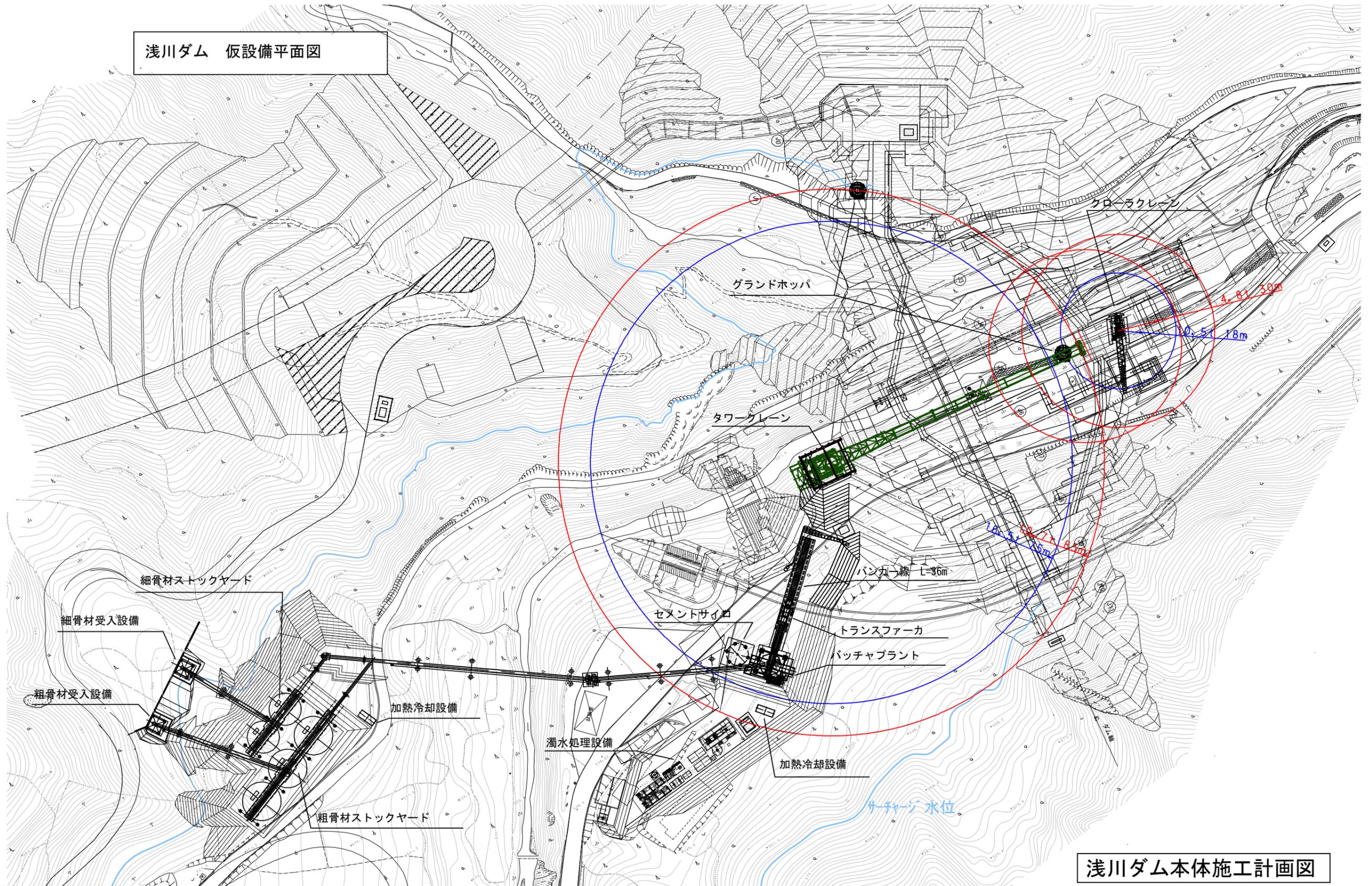
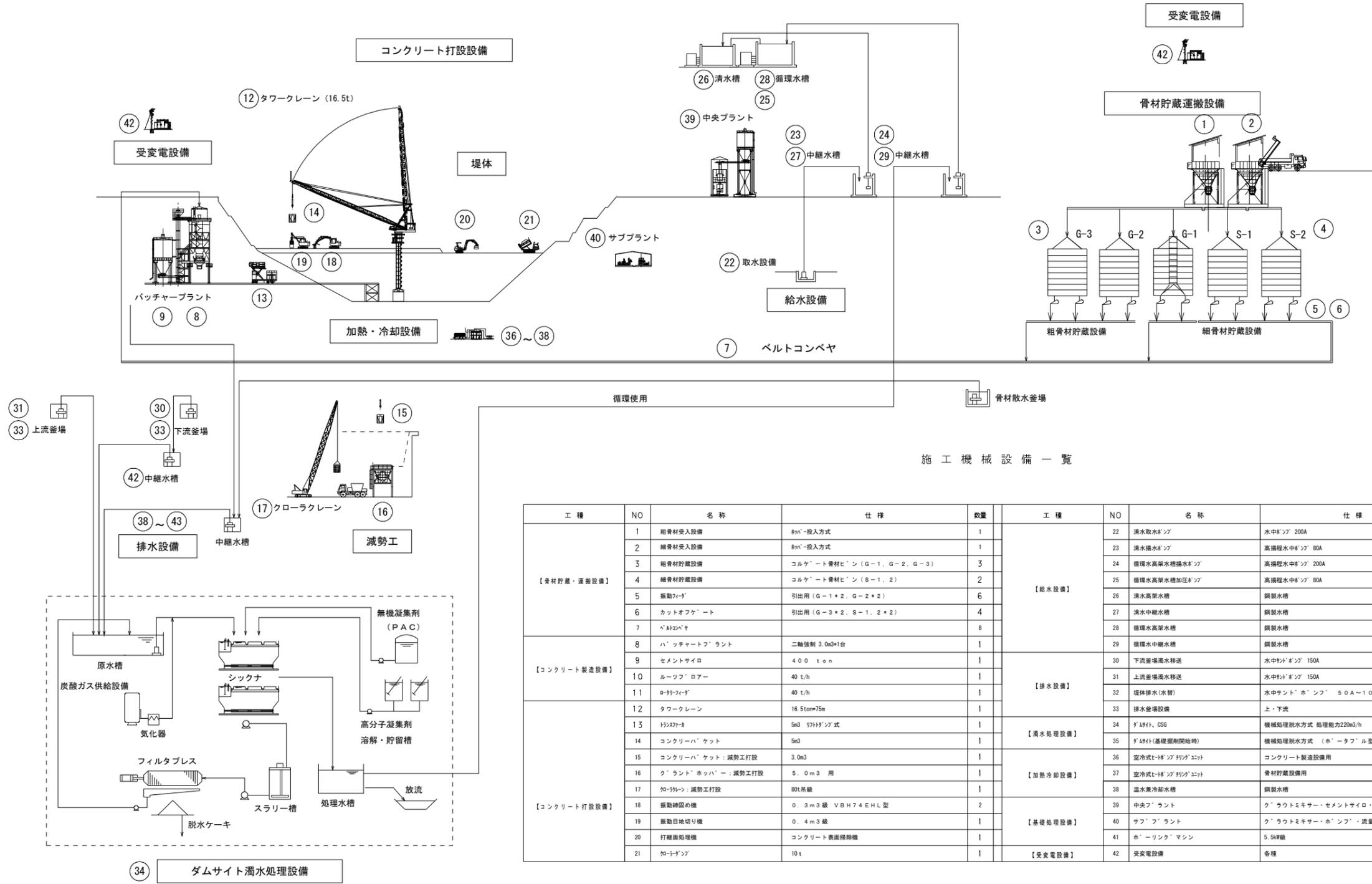


図 4.3.2 仕上げ掘削模式図

4.4 施工計画概要図(案)



浅川ダム仮設備フローシート



施工機械設備一覧

工種	NO	名称	仕様	数量	工種	NO	名称	仕様	数量	
【骨材貯蔵・運搬設備】	1	粗骨材投入設備	ホッパ投入方式	1	【給水設備】	22	清水取水ポンプ	水中ポンプ 200A	1	
	2	細骨材投入設備	ホッパ投入方式	1		23	清水揚水ポンプ	高揚程水中ポンプ 80A	1	
	3	粗骨材貯蔵設備	コルケート骨材ヒーン (G-1, G-2, G-3)	3		24	循環水高架水槽揚水ポンプ	高揚程水中ポンプ 200A	1	
	4	細骨材貯蔵設備	コルケート骨材ヒーン (S-1, 2)	2		25	循環水高架水槽加圧ポンプ	高揚程水中ポンプ 80A	1	
	5	振動フィーダ	引出用 (G-1+2, G-2+2)	6		26	温水高架水槽	鋼製水槽	1	
	6	カットオフゲート	引出用 (G-3+2, S-1, 2+2)	4		27	清水中継水槽	鋼製水槽	1	
【コンクリート製造設備】	7	ベルトコンベヤ		8	28	循環水高架水槽	鋼製水槽	1		
	8	バッチャートプラント	二輪強制 3.0m ³ 1台	1	29	循環水中継水槽	鋼製水槽	1		
	9	セメントサイロ	4.0 t on	1	30	下流釜場濁水移送	水中ポンプ 150A	1		
【コンクリート打設設備】	10	ルーツローア	40 t/h	1	【排水設備】	31	上流釜場濁水移送	水中ポンプ 150A	1	
	11	0-99-05	40 t/h	1		32	堤体排水(水替)	水中サントホンプ 50A~100A	12	
	12	タワークレーン	16.5ton*75m	1		33	排水釜場設備	上・下流	2	
	13	15x27x8	5m3 97Hポンプ式	1	【濁水処理設備】	34	ダスト付、CSG	機械処理脱水方式 処理能力220m ³ /h	1	
	14	コンクリートハット	5m3	1		35	ダスト付(基礎掘削開始時)	機械処理脱水方式 (ホータフル型) 処理能力60m ³ /h	1	
	15	コンクリートハット:減勢工打設	3.0m3	1		【加熱冷却設備】	36	空冷式ヒートポンプユニット	コンクリート製造設備用	4
	16	クランフトップ:減勢工打設	5.0m3 用	1	37		空冷式ヒートポンプユニット	骨材貯蔵設備用	1	
	17	クレーン:減勢工打設	80t吊線	1	38		温水兼冷却水槽	鋼製水槽	1	
	18	振動締固め機	0.3m3級 VBH74EHL型	2	【基礎処理設備】	39	中央プラント	クラウトミキサー・セメントサイロ・スクリーンコンベア	1	
	19	振動目地切り機	0.4m3級	1		40	サブプラント	クラウトミキサー・ホンプ・流量計	1	
	20	打掃面処理機	コンクリート表面掃除機	1		41	ホーリシマシ	5.5kW級	8	
		21	クレーン	10t	1	【受変電設備】	42	受変電設備	各種	1

4.5 CSG地すべり対策工計画（案）

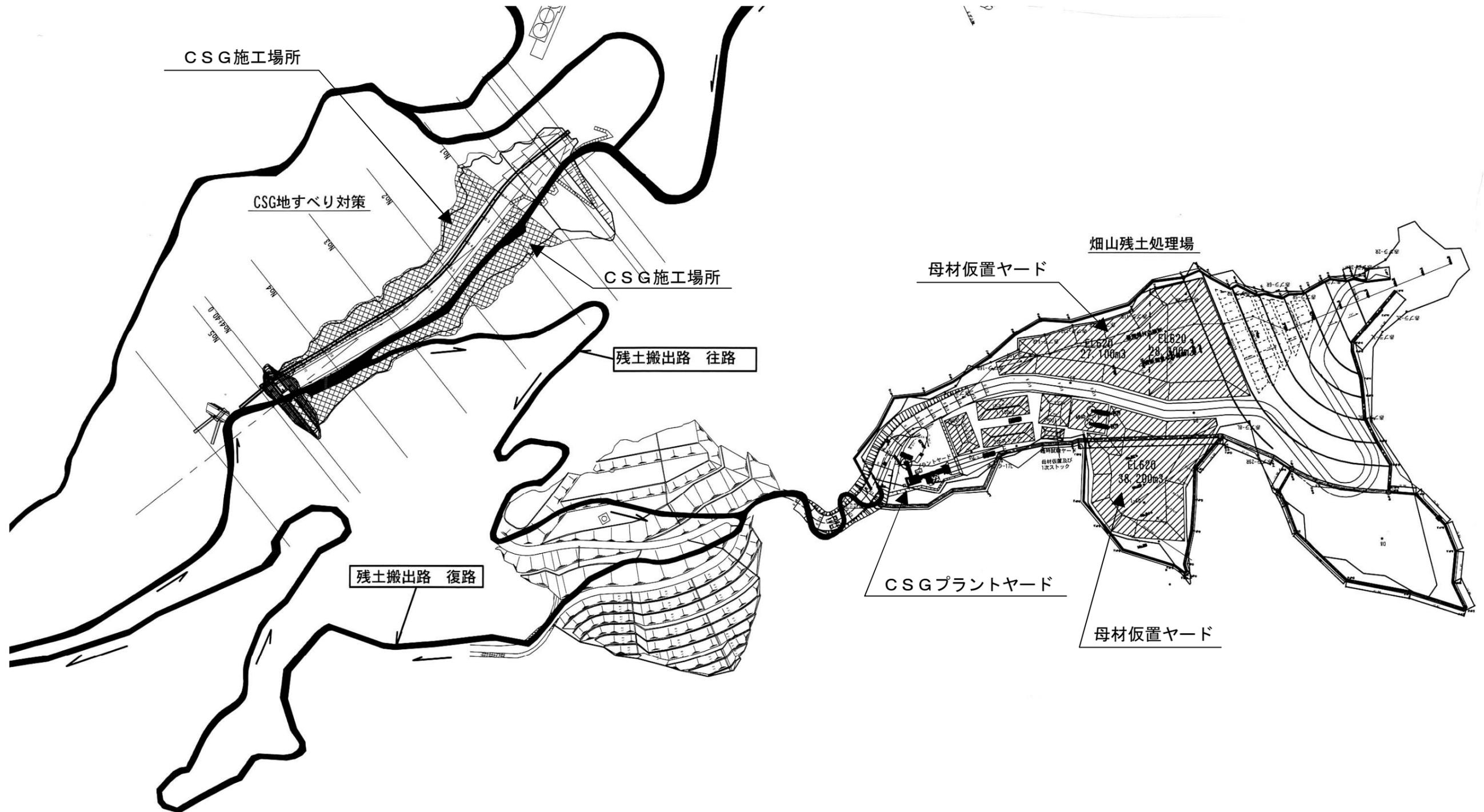


図 4.5.1 全体平面図

5. 安全対策

5.1 残土運搬経路および交通誘導員配置図

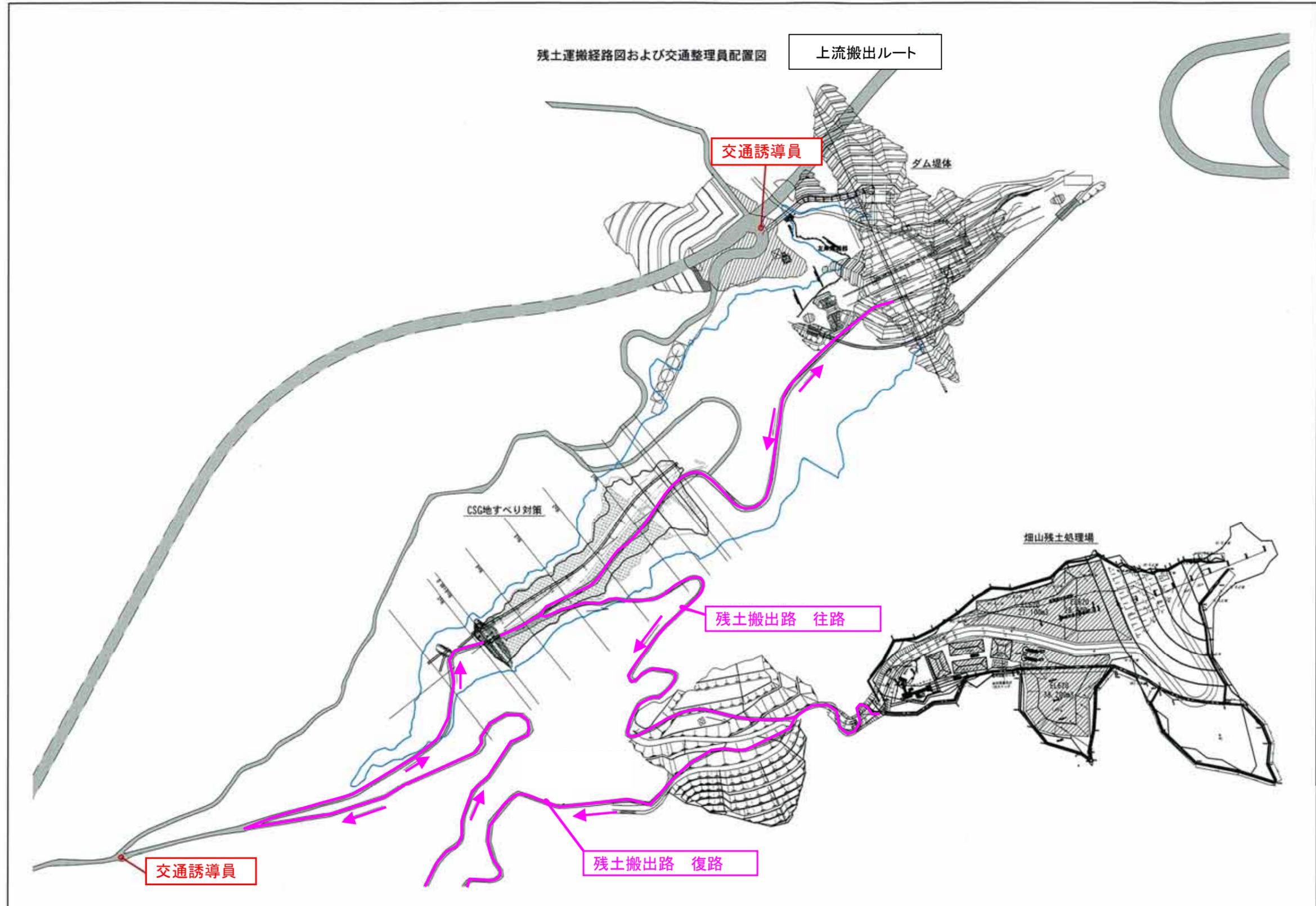


図 5.1.1 残土運搬経路図および交通整理員配置図(上流搬出ルート)

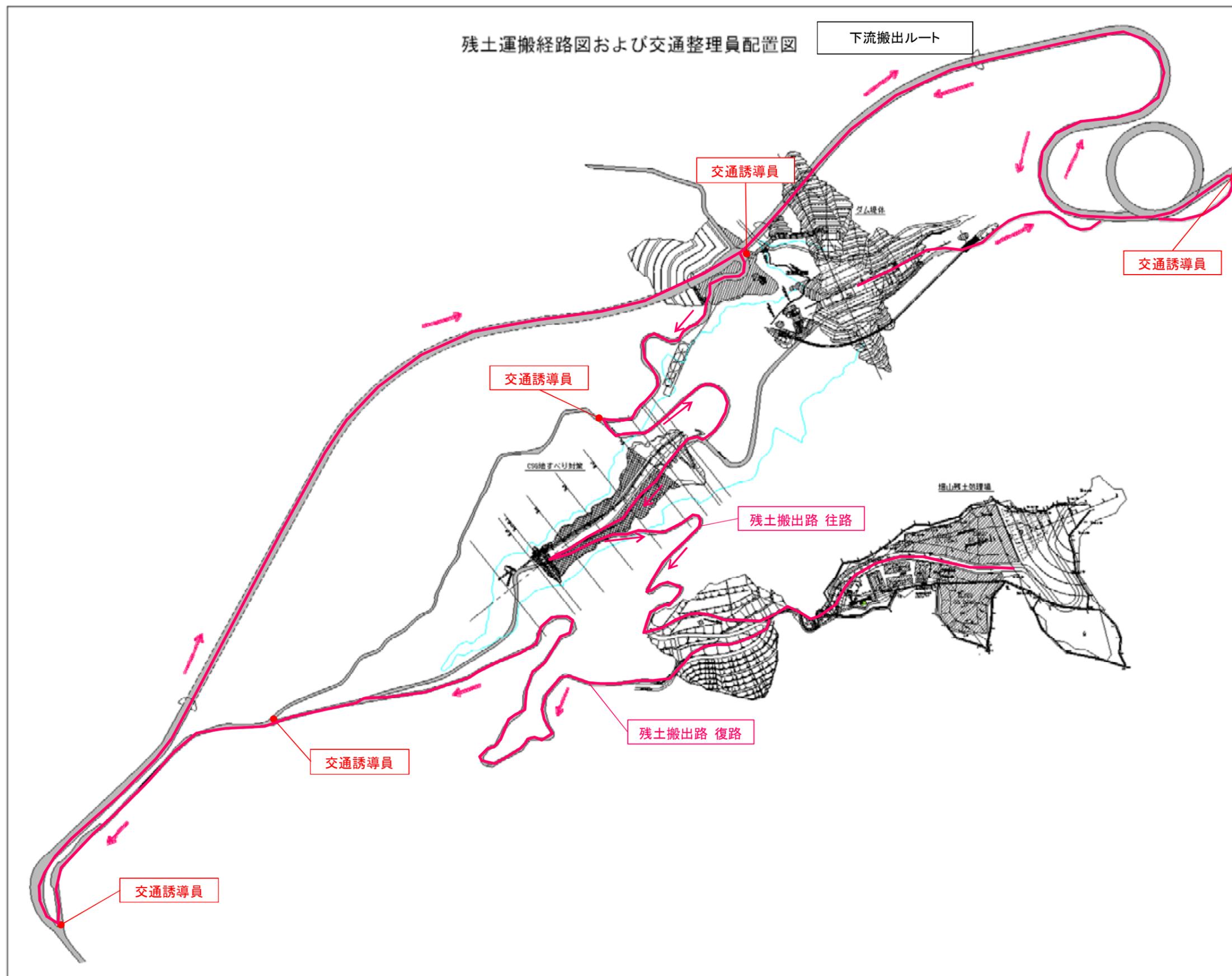


図 5.1.2 残土運搬経路図および交通整理員配置図(下流搬出ルート)

5.2 交通安全対策

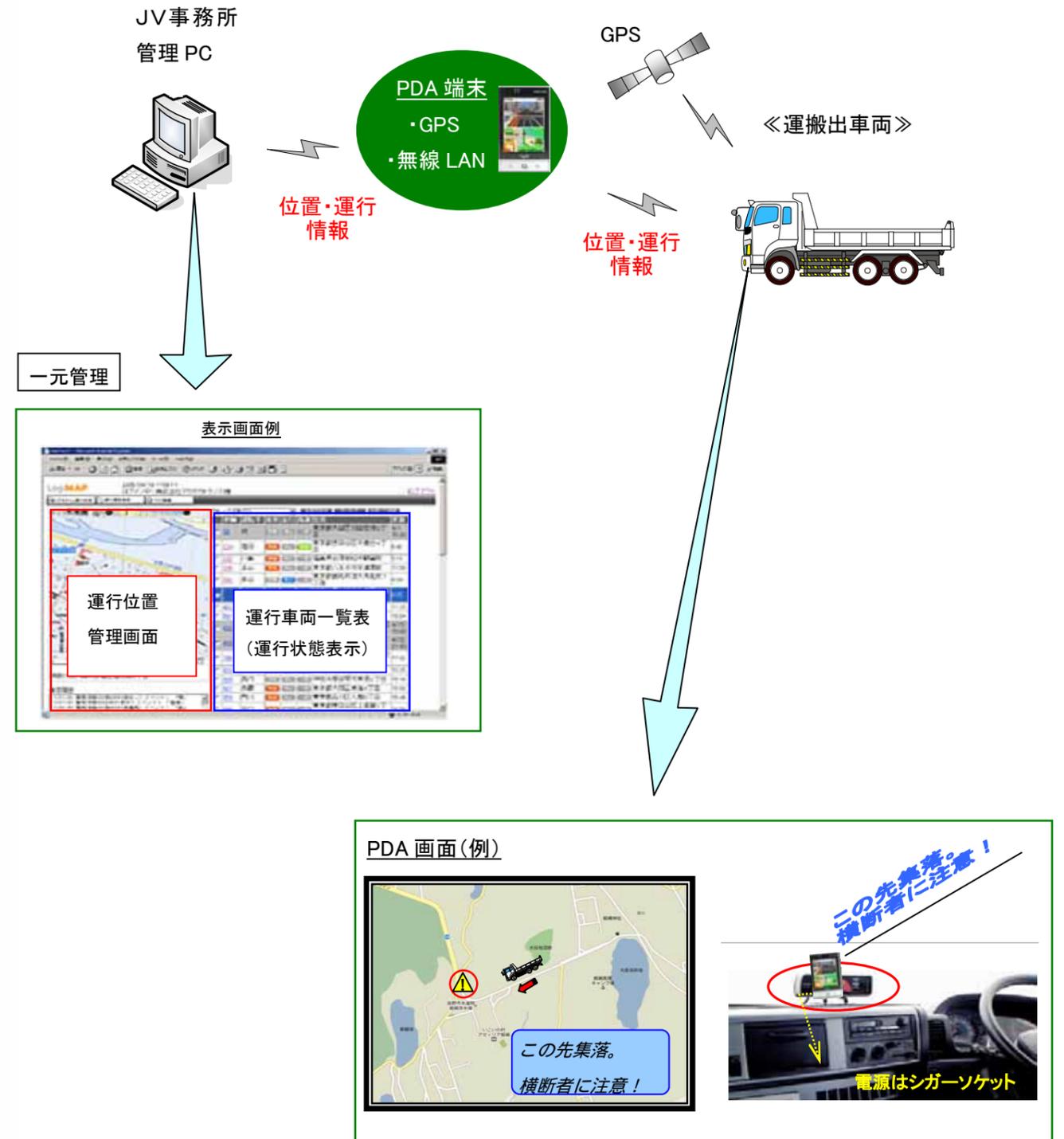
ハザードマップによる繰り返しの安全教育と、GPSによる骨材運搬車両の運行管理により交通災害の発生を防止する。

全作業員を対象に新規入場者教育時及び安全大会にて繰り返し教育する。



- 1 この区間は、急坂急カーブの連続なのでスピードの出しすぎはしない。
 - 2 朝夕の通学時はJVで決めた安全速度を厳守して安全走行を心がけること。
 - 3 特に長野信濃線の歩道はかなり狭いため、児童はじめ第三者の通行には細心の注意を払う。
 - 4 トンネル内は必ず点灯すること。
 - 5 冬期間の走行では十分な安全対策を行うこと。
- 大林・守谷・川中島建設JV

ハザードマップ(例)



5.3 法面の挙動監視対策

大規模な切土を行うことから、孔内傾斜計とGPS自動計測によるリアルタイムな法面監視と異常時の速やかな通知システムを設置する。

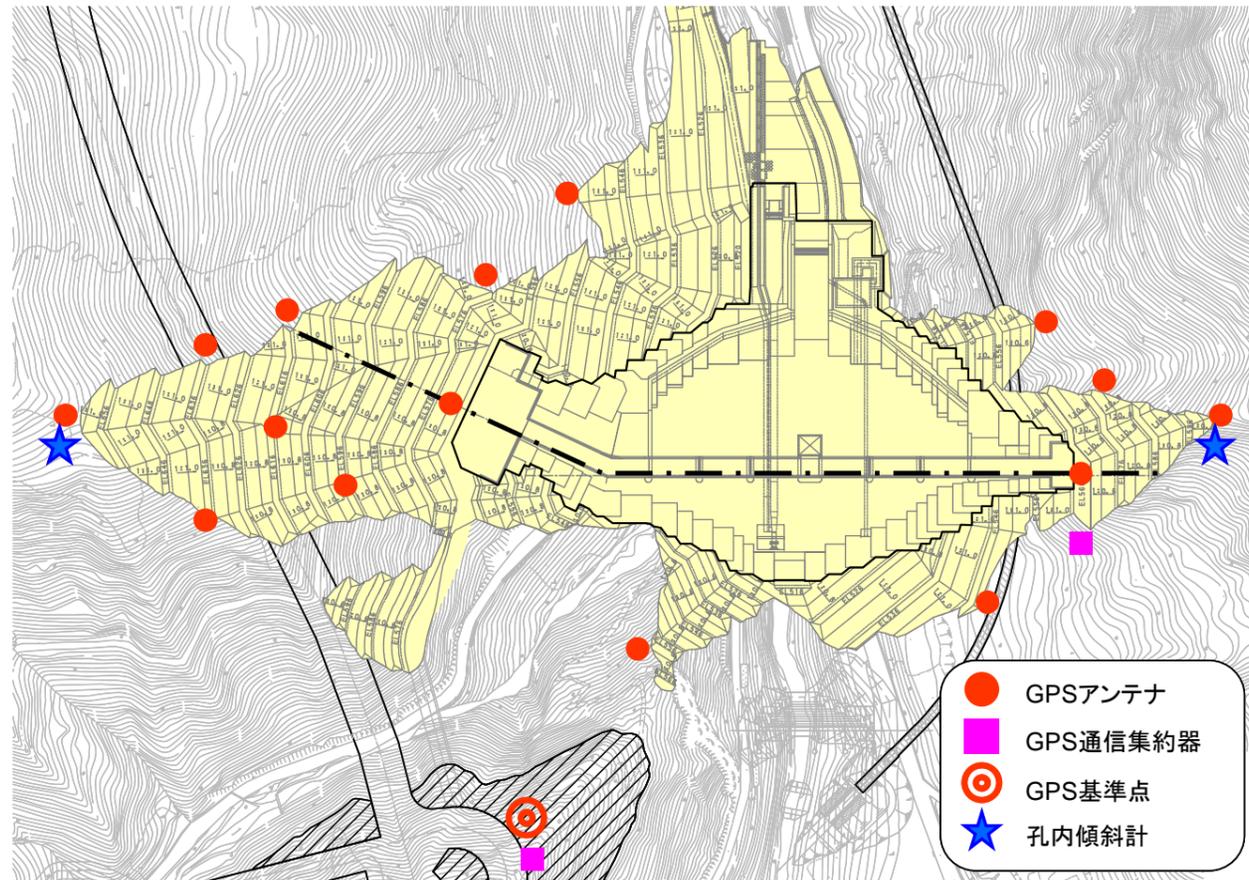


図 5.3.1 計測計画平面図

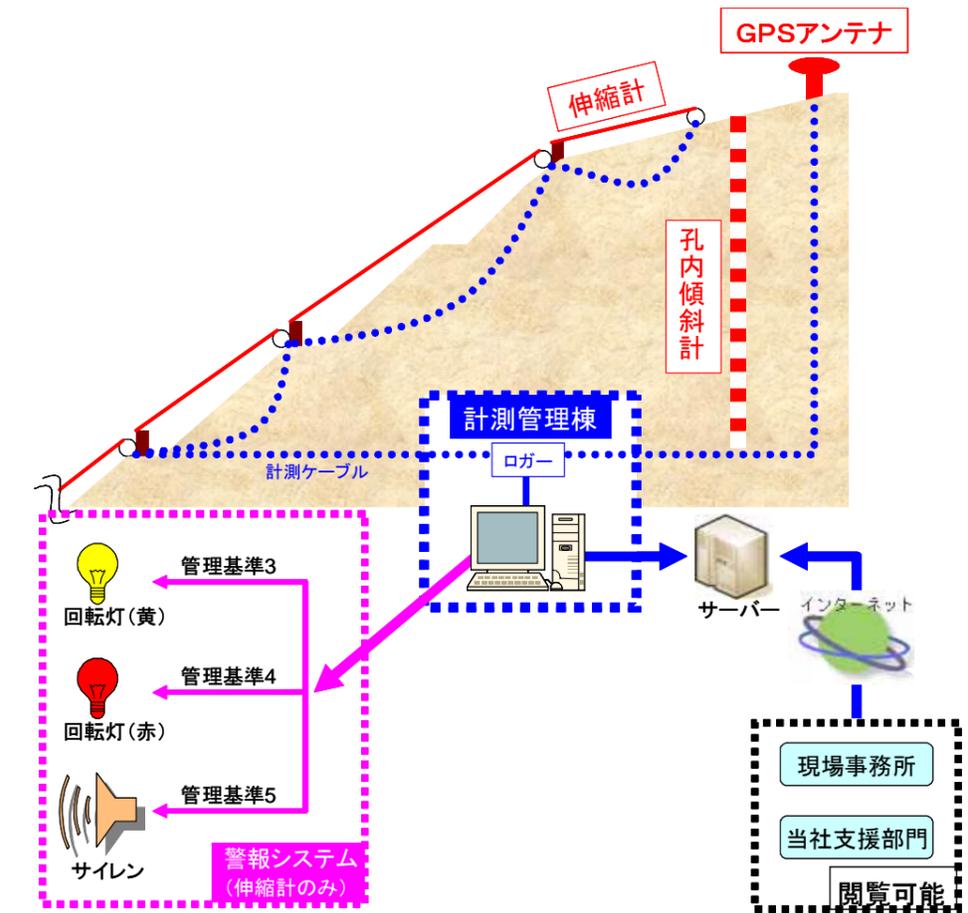


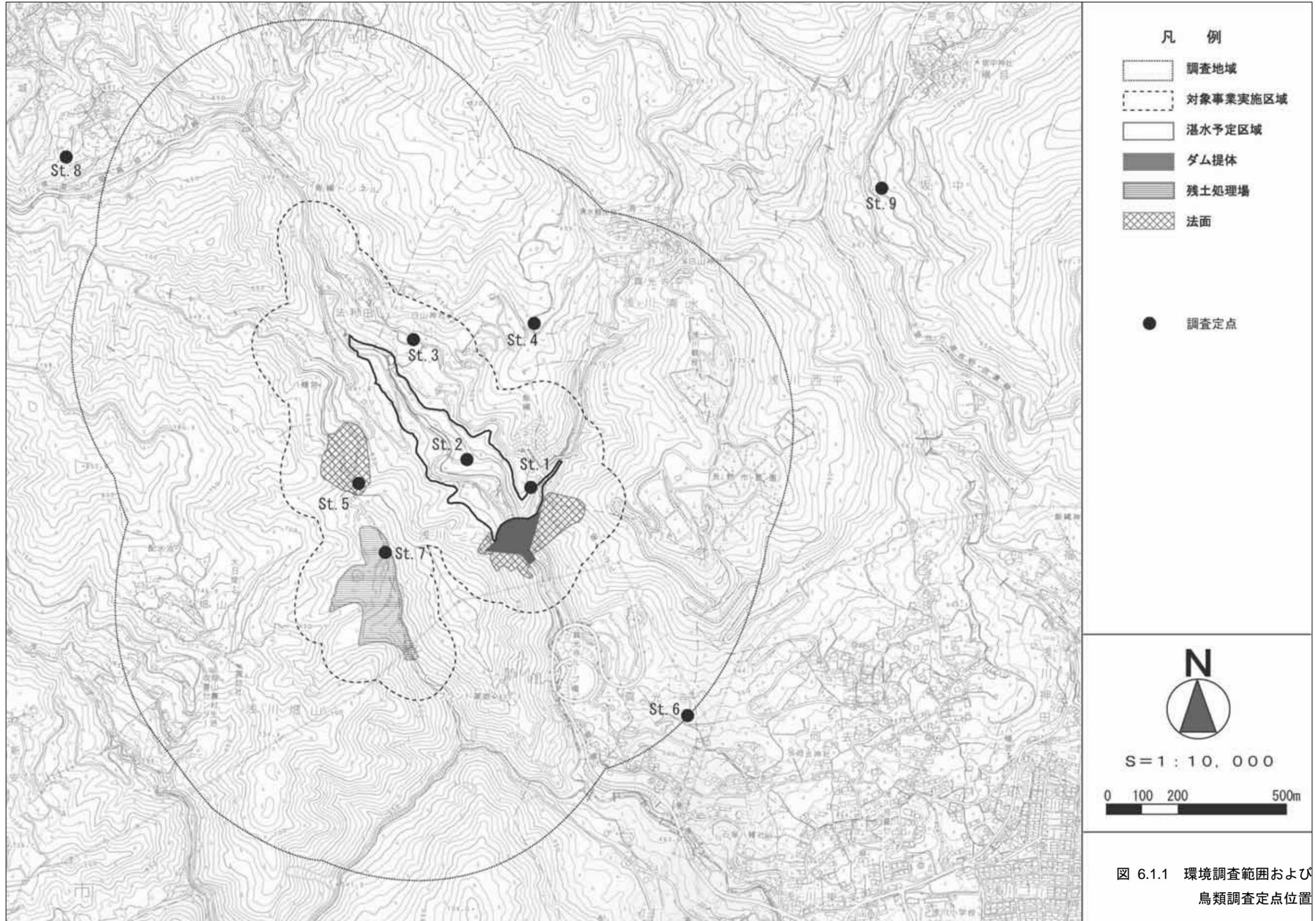
図 5.3.2 計測システム概略図

表 5.3.1 計測管理基準(案)

管理基準	計測値		計測項目	現場の対応	通報等 安全措置
	GPS	伸縮計			
1	5mm/10日未満		・法面目視観察 ・GPS計測 ・孔内傾斜計	日常管理	
2	5mm/10日以上		・上記の項目 ・伸縮計追加	監視・観測強化	
3	5mm/5日以上	5mm/5日以上	・法面目視観察 ・GPS計測 ・孔内傾斜計 ・伸縮計	対策検討	回転灯(黄)
4	10mm/1日が2日以上連続	10mm/1日が2日以上連続 あるいは 2mm/1時間が2時間以上連続		作業中止・対応策の検討・応急対策の実施	回転灯(赤)
5		100mm/1日以上 あるいは 4mm/1時間		直ちに作業中止・避難・立ち入り禁止	警報器作動(サイレン)

6. 環境対策および建設副産物処理

6.1 希少動植物の調査と配慮事項



○関係作業員等の教育

希少動植物の種類、注意事項をまとめた資料（抜粋）により、JV職員から作業員にいたるまで、希少動植物に対する保全教育を行っている。

1. 動物

① 哺乳類

ニホンリス カウネズミ

ムササビ ツキノワグマ

カモシカ ホンシュウトガリネズミ

② 両生類・爬虫類

ハコネサンショウウオ イモリ

アズマヒキガエル タゴガエル

トウキョウダルマガエル ツチガエル

③ 底生動物

マルタニシ オオタニシ

カリニナ モノアラガイ

カラスガイ マシジミ

文献調査および現地調査により確認された重要な動植物

1. 動物（重要種 99種）

- ① 哺乳類（重要種 11種）
- ② 鳥類（重要種 54種）
- ③ 両生類・爬虫類（重要種 13種）
- ④ 魚類（重要種 7種）
- ⑤ 底生動物（重要種 14種）

2. 植物（重要種 70種）

作業上の注意

工事計画では、重要な動植物の営巣地を避けるようにルートを変更し、敏感な時期の工事を行わないなどの対策を行います。作業中は以下のことに注意してください。

- 山火事には注意してください。
- ごみを捨てないでください。
- 営巣地には入らないでください。

④ 鳥類

ハチウマ オオタカ

ハイタカ ツミ

サンバ フマタカ

⑤ 魚類

ゲンゴロウブナ タモロコ

アブラハヤ ヤマメ

ニッコウイwana メダカ

カジカ

2. 植物（70種類）

ミスズナ オオハジワラヒ

フユノハナワラヒ イワハコ

オソバハラウサ ミヤマシトトリモチ

図 6.1.2 環境教育資料

6.2 工事による振動騒音発生対策

工事による振動、騒音の発生を低減させる下記の対策を実施している。

- 超低騒音型の建設機械の使用
- 場内走行速度 30km/h 以下
- 住居近接部 15km/h 以下
- 低振動型のブレーカの使用

ダム工事が与える影響を把握するため、平成 22 年 8 月以降入真光寺地点及び真光寺地点における騒音、入真光寺、ダム下流地点において振動の測定を行っている。測定結果は、いずれも特定建設作業の規制値を満足する結果が得られている。

○特定建設作業の規制

- 騒音の大きさ 85dB 以下
- 振動の大きさ 75dB 以下

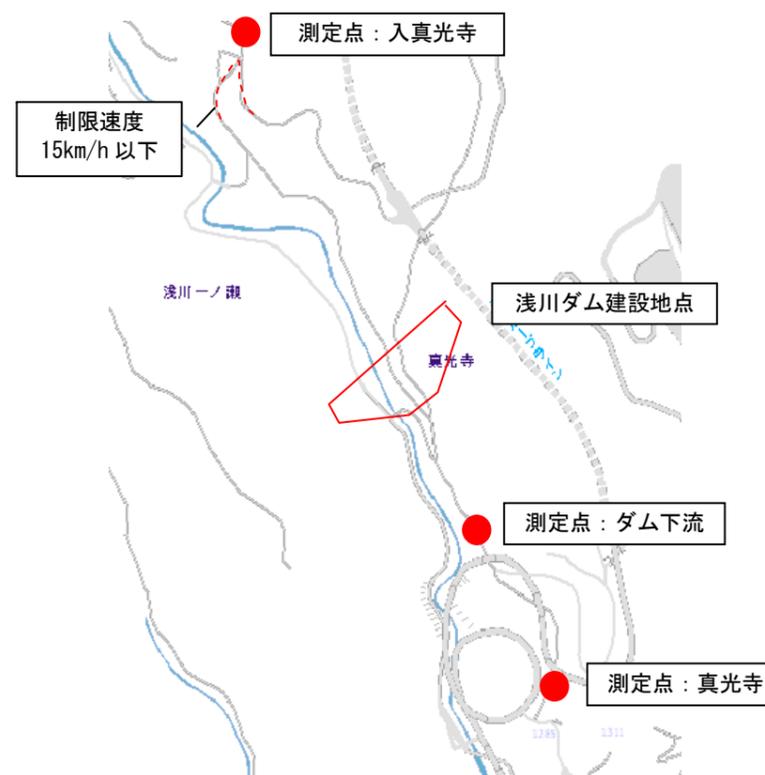


図 6.2.1 測定位置図

6.3 濁水の発生と濁水処理の概要

6.3.1 本体濁水処理対策

浅川ダムでは、法的規制値「総理府令による排水基準」より厳しい基準である環境基準A類型とし、処理目標値を表 6.3.1 に示す。

表 6.3.1 処理目標値

水質項目	長野県排水基準	浅川ダム処理目標値 (環境基準 A 類型)
浮遊物質 (SS)	日平均 70ppm 以下	25mg/ 以下
水素イオン濃度 (pH)	5.8 ~ 8.6	6.5 ~ 8.5

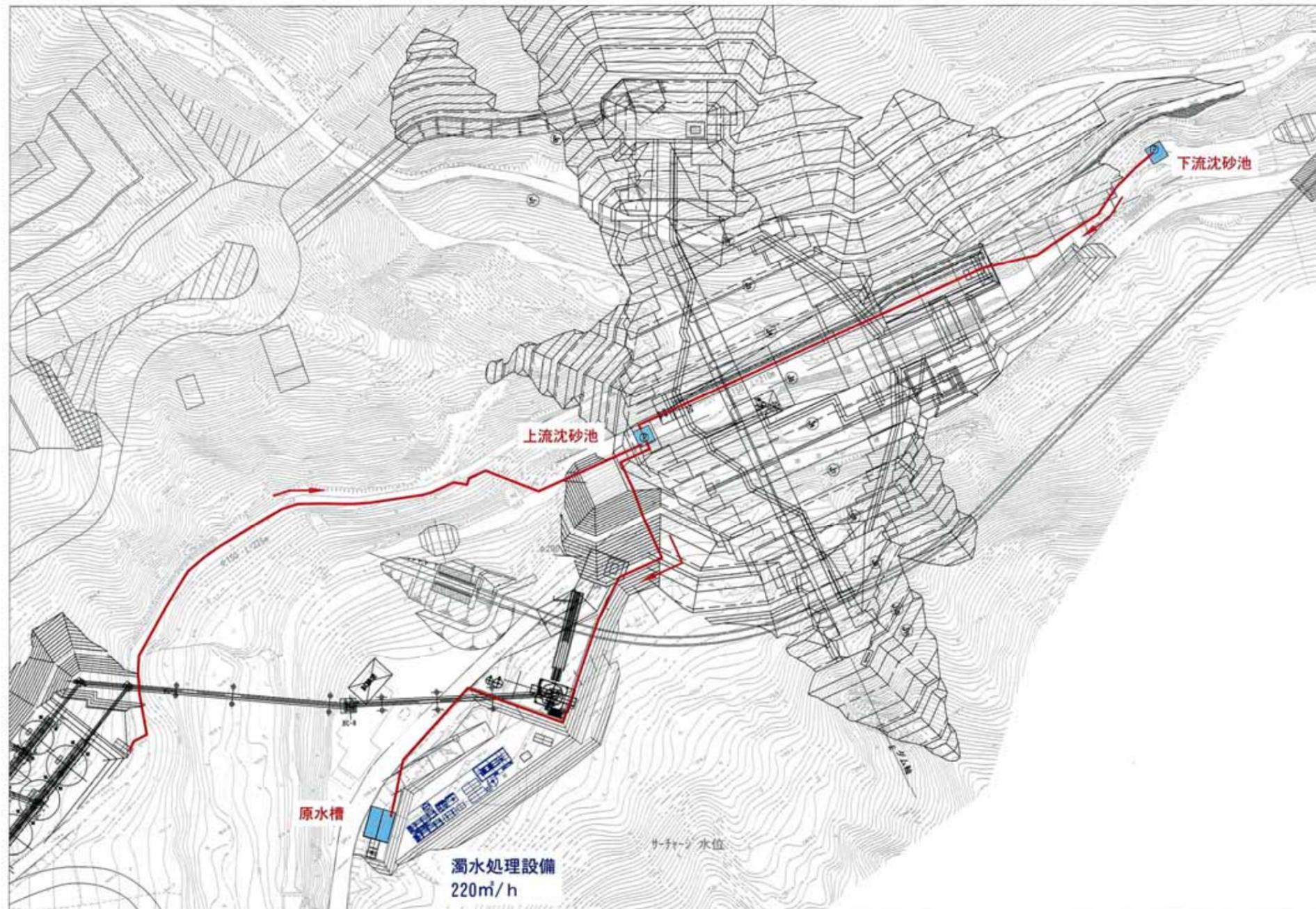


図 6.3.1 ダムサイト濁水処理

堤体基礎掘削初期・上流2次締切施工時には60t/h濁水処理設備を配置する。

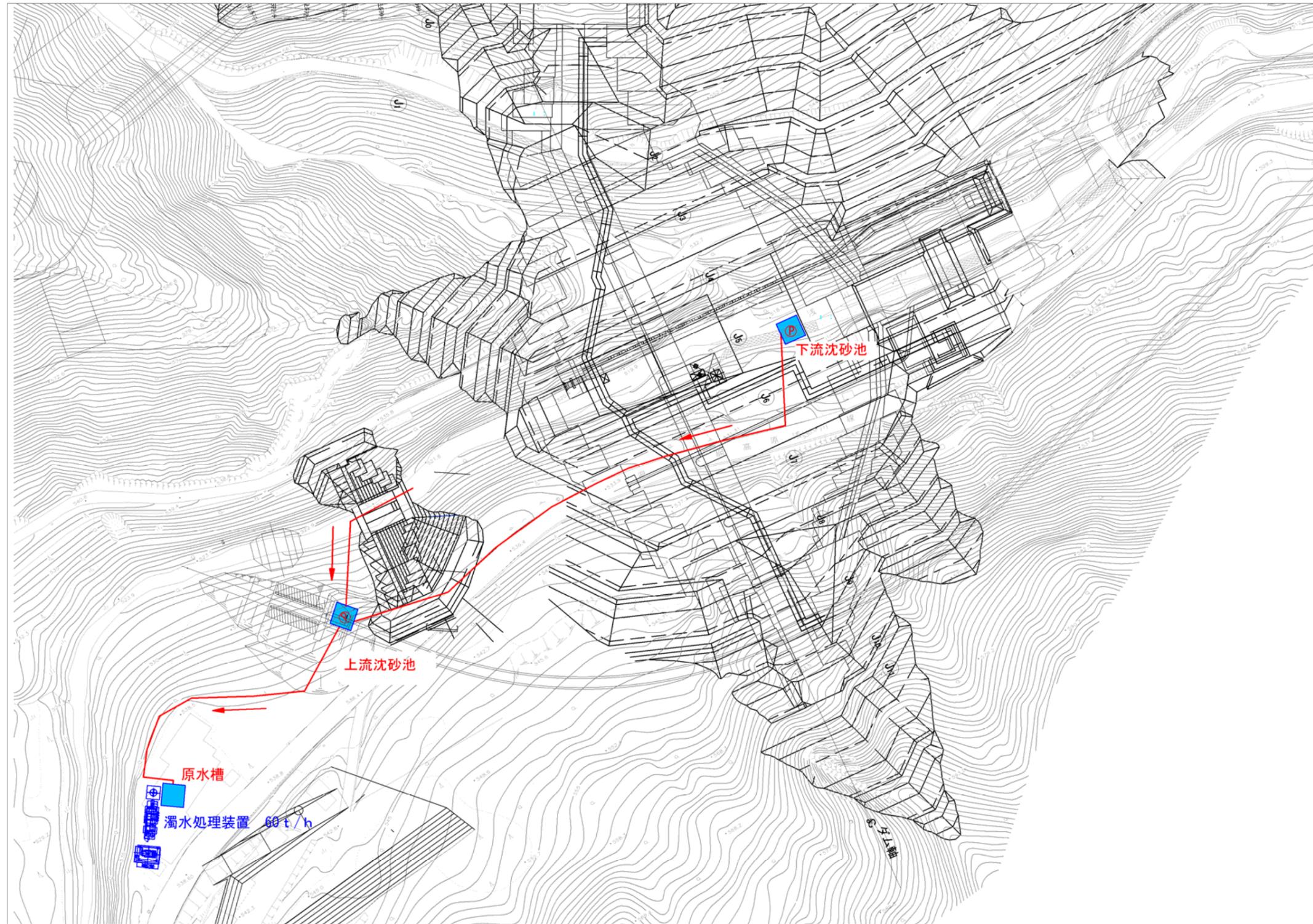


图 6.3.2 堤体基礎掘削・上流2次締切濁水処理

6.4 建設副産物の種類と処理方法

6.4.1 建設副産物に対する取り組み

表 6.4.1 建設副産物に対する工事事務所の取り組み方針

【取り組み方針】	<p>浅川ダム建設工事において、建設副産物の取扱いについて以下のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「(株)大林組 環境方針」に基づいた管理を行う。
【目的及び目標】	<p>建設副産物の発生を抑制するため、次の目標を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電子マニフェストの利用を図る。 • ゼロエミッションを推進する。 • 建設廃棄物のリサイクル率向上を図る。
【管理方法】	<ul style="list-style-type: none"> • 協力会社へ「(株)大林組 環境方針」の伝達及び方針の掲示。 • 電子マニフェストの利用。 • 建設副産物の種類毎に廃棄コンテナを設置。 • 協力会社職員に対する建設副産物の分別収集の教育並びに周知徹底。

表 6.4.2 建設副産物の種類と処理方法

建設副産物の種類	処理方法
【コンクリートガラ】	破碎処分し、再生砕石として利用。
【アスファルトガラ】	破碎処分し、再生加熱 AS 合材として利用。
【木屑】	有効利用として、薪材にして地元配布。 利用ができない枝、根は木材チップとして有効利用。
【汚泥】	産棄として処分。
【紙屑】	分別収集し、焼却処分。
【金属屑】	スクラップとして再生利用。
【段ボール】	梱包材として再生利用。
【廃プラスチック】	分別収集し、破碎・焼却処分。